



荒川 栄悦 議員  
(清風会)

一問一答方式

【その他の質問】

- ◆SLプロジェクトについて
- ◆駅前通りの整備について

有機農業の推進と支援を強くアピール

農業振興における循環型農業や有機農業の今後のあり方は

**問**……………  
農業振興における循環型農業や有機農業の今後のあり方について伺う。

**答**……………  
当市の農業生産体系は、コメや野菜、工芸作物の耕種と、和牛の繁殖・肥育や酪農の畜

産との複合経営が多いが、耕種農家と畜産農家が連携した、有機堆肥と牧草や稲わらの相互供給・利用も行われている。タフビジョンにおける耕畜連携を柱に据えた循環型農業の推進は、大切であり力を入れていく。

とであり、現在は90%の稼働率である。今後大型肥育牧場や、キャトルセンターからの排泄物処理が課題となる。現在の処理能力では間に合わないため、別な処理方法を考えた。また、堆肥の品質管理上、人員配置についてもマンパワーとしての常勤職員の確保が

課題であり、ミスマッチにならないよう解決策を探る。更に、今後の堆肥センターやキャトルセンターの運営管理も畜産公社に指定管理ということも含めて雇用や若者定着という観点からも検討の対象となる。堆肥センターの堆肥利用による有機農業についても、有機農業推進法に則り、実証田の結果も踏まえて、市でも取り組んでいる。遠野あぐりスクールにおいて、減農薬、減化学肥料栽培による生産及びほか肥料の作り方の講習を開催した。また、環境保全型農業直接交付金制度を導入し、2名の農業者がその制度を利用して有機農業に取り組んでいる。



新年から稼働する大野平キャトルセンター

このような取り組み情報等を丁寧に発信し、支援をしていきたい。市内には、こだわりの農業生産に取り組む農業者等があります。自ら工夫し行動することが大事だと思う。有機農業における農産物の

差別化による収入増が図れるならば、過疎化、高齢化、が徐々に解消され後継者も育つと思われる。今後、タフビジョンに依り有機農業を強くアピールしていく。



瀧本 孝一 議員  
(新興会)

一括質問方式

公文書の保存や廃棄の実態は

こども自然公園の整備の必要性は

**問**……………  
本市の公文書の保存や廃棄の実態は適切に処理されているか。九州のある自治体で、保存されていない場合はならない平成の合併時の大事な史料が廃棄されていたという実態が報道されたが、本市にはそのような事例はないか。

**答**……………  
旧市・村の合併の資料については、当市の文書取扱規定により永久保存に分類されることから、大切に保管しており、廃棄している事例はない。合併に係る一連の事務処理関係の簿冊約300冊や、「新遠野市誕生 遠野

市・宮守村合併の記録」という冊子も作成し、後世に残す貴重な資料として、昨年度旧法務局の建物を買収して設置した行政文書館に保存している。

**問**……………  
市内には幼児や子どもから大人まで、安心してゆつくりと遊ぶことのできる公園が少ない。自然に恵まれた本市において、その特性や自然条件を生かし、県立花巻広域公園の縮小版のような、交流人口の拡大や子育て支援の環境整備にもつながる「こども自然公園」の整備の必要性はないか。

**答**……………  
市内の公園は、都市公園法に規定する都市公園としての遠野運動公園などの3カ所、街区公園5カ所や農村公園等を整備して、市民に安全で安心して利用してもらえようという管理運営に努めている。



後世に歴史をつなげる公文書が保存・管理されている遠野市行政文書館

提案のあった既存の地域資源に併設するような形で公園整備については、高速道路や交通インフラの整備が進む中、今あるものに新たな役割を組み込み、遠野に行けば大人も子どもも楽しめるという場所を作っていくことは大事なプロジェクトとして位置付けている。